

# 授 業 概 要

---

Syllabus

---

2019

【3 年次】

富良野看護専門学校



# 目次

I. 2019年度学年暦	1
II. 授業科目・時間数一覧	2
III. 授業概要(3年次生用)	
1. 基礎分野	
英語Ⅱ .....	4-1
2. 専門基礎分野	
保健医療と法規 .....	5-1
3. 専門分野Ⅱ	
母性看護方法論Ⅲ .....	6-1
<実習> 成人看護学実習Ⅲ	
老年看護学実習Ⅱ	
小児看護学実習	
母性看護学実習	
精神看護学実習	
4. 統合分野	
在宅看護方法論Ⅱ .....	7-1
看護管理と医療安全 .....	7-3
災害看護と国際協力 .....	7-6
統合技術論 .....	7-8
<実習> 在宅看護論実習	
統合実習	



# 1. 基礎分野

英語Ⅱ



教 科 目 名	英語Ⅱ	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間)
担 当 者	A L T	講義学年・学期	3 年次 前・後期

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：様々な医療に関する内容のリスニング演習、医療現場を想定した基礎的な医療英会話の演習を通し、外国人患者との会話に対応できる基礎的能力を養う。</p> <p>目標：1. 看護の現場で役立つ英語の表現や、語彙を拡充しその定着をはかる。 2. これまで学んだ英語に磨きをかけ、看護現場で外国人患者と必要最小限のコミュニケーションができる英語力を養う。 3. 英会話を楽しみ、異文化を知り、国際感覚を身につける。</p> <p>内容：1. 日常生活における英会話の基礎 2. 医療場面における英会話</p>
授業の形式	講 義 英会話 発音練習
成績評価の方法	期末試験、出席、受講態度の総合評価
教科書・参考書	随時プリントを用意します。
メッセージ	臆することなく話すこと。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1 2	自己紹介	・ 現在時制
3 4	病院内の案内	・ 場所の聞き方・ 答え方 ・ 命令文
5 6	医療用品	・ 過去時制
7 8	患者へのマナー	・ 丁寧な声のかけ方
9 10	病気の症状	・ 現在の進行時制
11 12	問診票などの書き方	・ 問診の仕方
13 14	英会話	・ 介助に使う動詞
15	期末試験	期末試験



## 2. 専門基礎分野

保健医療と法規



教 科 目 名	保健医療と法規	単位数 (時間数)	1 単位(15 時間)
担 当 者		講義学年・学期	3 年次 後期

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：保健・医療に関係する諸法規の概念・目的を理解し、これらを基盤に看護職者として果たす役割の認識及び職責を正しく遂行するために保健師助産師看護師法を熟知する。</p> <p>目標：1. 法律の理念及び基礎知識を理解する。 2. 保健・医療に関する法律の種類、それらの理念・目的・内容を知る。 3. 看護師の定義・業務・義務、基盤である教育制度の保健師助産師看護師法について理解する。 4. 保健・医療に関係する職種の定義・業務・義務等を理解する。</p>
授業の形式	講 義
成績評価の方法	学科試験によって評価
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 「看護関係法令」健康支援と社会保障制度[4] 医学書院</p> <p>(参考書)</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 「社会保障・社会福祉」健康支援と社会保障制度 [3] 専門基礎分野 「公衆衛生」健康支援と社会保障制度 [2] 統合分野 「医療安全」看護の統合と実践 [1] 医学書院</p>
メッセージ	<p>法律関係の学習は難しく考えがちですが、私たちの生活は法律で守られています。医療に関しても基準が定められ、またその基準を監督する法があります。それらを学び、安全な看護が提供できる看護師を目指してください。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	担 当
1	法の概念 衛生法 医事法 医療法	法の概念 厚生行政について 衛生法について（概念・分類） 医事法の分類 1) 目的・医療提供の理念・定義等 2) 開設等の規制・管理・監督等 3) 病院等の人員・構造設備等 4) 診療に関する諸記録等 5) 医療提供体制の確保等	
2	看護関係の法	1) 保健師助産師看護師法について 構造と附属法令 定義・免許・業務・義務・試験等 保健師助産師看護師法施行令 保健師助産師看護師法施行規則 保健師助産師看護師学校養成所指定規則 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法	
3	医師法 歯科医師法 薬剤師法 その他医療関係資格法	1) 医師法について 定義・免許・業務・義務・試験等 2) 歯科医師法について 定義・免許・業務・義務・試験等 3) 薬剤師法について 定義・免許・業務・義務・試験等 4) その他医療関係資格法について	
4	保健衛生法	1) 保健衛生の分類について 共通保健法・分野別保健法 予防衛生法の分類 2) 地域保健法（目的・基本指針等）について 3) 健康増進法（目的・基本指針等）について 4) 感染症に関する法について 5) その他	

回	授 業 主 題	授 業 内 容	担 当
5	その他医療を支える法	1) 医療・介護提供体制に関する法 2) 移植医療に関する法 3) 人の死に関する法 4) 緊急時の医療に関する法 5) 災害時の医療に関する法 6) 労働法について 労働基準法・労働安全衛生法等 7) 社会基盤整備等に関する法について	
6	薬務法	1) 薬事一般に関する法 2) 人などの組織を用いた医療関連法 3) 薬剤被害者の救済等 4) 麻薬・毒物等	
7	保健衛生法 環境法	1) 食品に関する法 2) 環境衛生関係の営業に関する法 3) 生活環境の整備改善に関する法 4) 環境保全・公害防止に関する法 5) 自然保護に関する法	
	学科試験		



### 3. 専門分野Ⅱ

母性看護方法論Ⅲ

〈実習〉

成人看護学実習Ⅲ

老年看護学実習Ⅱ

小児看護学実習

母性看護学実習

精神看護学実習





教 科 目 名	母性看護方法論Ⅲ	単位数 (時間数)	1 単位 (15 時間)
担 当 者	米本 ゆみ子	講義学年・学期	3 年次 前期・後期

キーワード	生命の危機 ハイリスクスクリーニング ハイリスク看護の基本 異常の予防 早期発見 喪失体験 倫理 健康逸脱
学習目標 (授業の 位置づけ)	<p>周産期の異常は家族の誕生を心待ちにしていた母親や家族に動揺を与えます。また、日常生活を変更せざるを得なくなり、希望していた児の喪失や予期せぬ状況にいる家族に対し看護を提供します。治療や処置に伴う精神的苦痛や家族の苦悩を十分に理解し、異常の早期発見の重要性や緊急的な処置の基本的な方法について学びます。</p> <p>目的：周産期における母子に起こりやすい異常の要因を理解し、母子や家族に対する看護を学ぶ。</p> <p>目標：1) 周産期における母子の起こりやすい異常について理解する。 2) 周産期の異常の起こりやすい要因について理解することができる。 3) 周産期における異常の予防と早期発見の重要性が理解できる。 4) 周産期における異常の基本的看護を理解することができる。 5) 周産期の異常が母子や家族に及ぼす影響について理解することができる。 6) 母子や家族とのかかわりについて考えることができる。</p>
授業の形式	講義 演習
成績評価の方法	学科試験 *出席時間・授業態度を加味し評価することがある。
教科書・参考書	母性看護学概論 母性看護学各論 (医学書院) ウエルネスからみた母性看護過程 医学書院 パーフェクト臨床看護実習ガイド 母性看護 照林社 参考文献； 母性看護学Ⅰ・Ⅱ (妊娠・分娩・産褥・新生児) 医歯薬出版
メッセージ	<p>正常な周産期の学習を積みその上に成り立つ講義です。わかりにくい点は、正常な周産期の学習に戻り学習をしましょう。</p> <p>また、周産期の異常も正常の経過を見守る上で判断の土台となるものです。国家試験にも出題する分野でもありますので、基本的な看護の理解を十分に行なうと良いと思います。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	周産期の異常と看護総論	1) ハイリスクとは 2) 不妊・出生前診断と看護 3) 各期における異常 4) 母子・家族への影響 5) 看護の役割	米本 ゆみ子
2	妊娠期の異常に対する母子・家族への看護	1) ハイリスク妊婦の看護の基本 2) 入院安静が必要な妊婦の看護 3) 多胎妊娠・母子感染が予測される妊婦の看護 (流産・早産) 4) 生命の危険性が高い妊婦の看護 (常位胎盤早期剥離・前置胎盤・妊娠高血圧症候群) 5) 心理社会適応が困難な妊婦の看護 (高年・若年妊産婦・シングルマザー)	
3 4	分娩期の異常に対する母子・家族への看護	1) 異常の予防と早期発見 (胎盤機能不全・胎児仮死) 2) 異常分娩時の看護 (前期破水、帝王切開、産科出血) 3) 死産の場合の看護 (死産届・死後の処置・家族との対面)	
5 6	産褥期の異常に対する母子・家族への看護	1) 復古の遅れが予測される褥婦への援助 (肺塞栓・産褥血栓症・復古不全) 2) 母子感染のおそれがある褥婦への援助 (産褥熱・乳腺炎) 3) 母乳保育にトラブルがある褥婦への援助 (乳腺炎・乳頭トラブル) 4) 育児ストレスが高い褥婦への援助 (多胎・若年妊産婦・産褥うつ) 5) 子供を失った褥婦・家族への援助 (死産した親の看護)	
7	新生児期の異常に対する母子・家族への看護	1) ハイリスク新生児を持つ母親・家族の心理とその看護 2) 早期新生児期に異常が出現した児と家族への看護 (ディベロップメンタルケア) (早産児・低出生体重児・高ビリルビン血症・呼吸窮迫症候群)	
	学科試験		米本 ゆみ子

## 4. 統合分野

在宅看護方法論Ⅱ  
看護管理と医療安全  
災害看護と国際看護  
統合技術論

〈実習〉

在宅看護論実習

統合実習



教 科 目 名	在宅看護方法論Ⅱ	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	佐々木 政美	講義学年・学期	3 年次 前期・後期

キーワード	主体者 自己決定 個人 家族 QOL の向上 地域 社会資源 ケアチーム ケアシステム 看護の役割
学習目標 (授業の 位置づけ)	<p>地域で生活する療養者や家族を対象とする看護の展開においては、健康に関して個人の主体性や自己決定を重視し、側面から援助を行う。その目標は個人や家族の QOL の向上を目指すものとなる。生活という多様な場で展開される看護活動は、在宅を支える保健・医療・福祉の専門職のみならず地域に住む一般の人々をも含むケアチームとしての活動であり、看護もまたチームの一員として援助を提供する姿勢が求められる。また、生活者として一人ひとりがそれぞれの状態で必要な援助は異なること、介入の時期によっても必要とする援助は異なるなど長期的な支援を考える必要性を理解する。実習を挟んでの 1 年間の学習であるため地域での学びを活かし深めるとともに、主体者である個人や家族がどのように生活を続けていけるのか、専門職としての役割は何か、ケアシステムの在り方や課題など在宅看護を取り巻く現状にも目をむけ考える機会とする。</p> <p>目的：在宅療養者の特徴と現状の問題を理解し、地域における在宅療養者と家族への看護の展開方法を学ぶ。</p> <p>目標：1. 疾病や障害を抱え生活している療養者と家族についての理解、アセスメントの方法を理解できる。 2. 疾病や障害の程度、病期に応じた看護介入の方法を理解できる。 3. 地域で生活する療養者と家族を支えるための社会資源について考えることができる。 4. 療養者と家族の QOL を高める支援とは何か考えることができる。 5. 在宅を支えるケアチームの役割、看護の役割について考えることができる。 6. 在宅看護の現状と課題について考えることができる。</p>
授業の形式	講義の他、各状態別の事例について、具体的支援を考えて行きます。学習期間が長期間になりますので、個人ワークを取り入れ、随時追加できる資料を提示していきたいと思います。
成績評価の 方法	・学科試験
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 統合 「在宅看護論」医学書院</p> <p>成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 ニューベルヒロカワ</p> <p>国民衛生の動向 高齢者白書 厚生統計協会</p>

メッセージ	在宅の対象者への支援を考えるためには視野を広げ、解らないこと、明らかにしたいことを自ら調べ突き進む積極的な姿勢を持ってほしいと思います。地域での看護は多様で、対象の数だけその援助もまた多様です。そこに学ぶ意味があります。自ら生活者としての視点を持ち、体験したこと、知り得たことをつなげながら学習を深めていきましょう。
-------	--

回	授 業 主 題	授 業 内 容	担 当
1 2 (0.5)	在宅看護介入時期別の 特徴	1) 慢性期にある療養者 (1) 慢性期の特徴をふまえた看護介入 2) 急性期にある療養者 (1) 急性期の特徴をふまえた看護介入	佐々木 政美
3 4	地域で療養する人の理解	1) 認知症療養者の理解と看護 (1) 認知症療養者と家族の理解 (2) 認知症療養者と家族への支援	
5 6	地域で療養する人の理解	2) 神経難病を有する療養者の理解と看護 (1) 難病の理解と医療福祉施策	佐々木 政美
7	地域で療養する人の理解	(2) 難病の療養者と家族への支援のポイント (3) 療養者と家族への援助	
8	地域で療養する人の理解	3) 精神疾患を有する療養者の理解と看護 (1) 精神障害者の在宅看護の特徴 (2) 療養者の理解と支援	
9 10 11 (0.5)	地域で療養する人の理解	4) 在宅療養児の理解と看護 (1) 小児の在宅看護の現状 (2) 在宅療養児と家族への援助 5) 在宅療養者への訪問看護	佐々木 政美
12 13	地域で療養する人の理解	6) 終末期にある療養者の理解と看護 (1) 在宅ターミナルの現状と課題 (2) 在宅ターミナルケアの実際	
14	災害時における健康危機 管理	1) 在宅療養における災害対策 2) 地域包括ケアシステムにおける災害対策	佐々木 政美
15 16 (0.5)	在宅看護の動向	1) 在宅看護にかかわる法令・制度 (1) 医療確保法・障害者総合支援法・難病法他 (2) 介護保険法改正のポイント 2) 在宅看護の動向 (1) 訪問看護の現状 (2) 在宅看護の動向	佐々木 政美
	学科試験		

教 科 目 名	看護管理と医療安全	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間)
担 当 者	鈴木 恭子/佐々木 政美	講義学年・学期	3 年次 前期・後期

キーワード	看護マネジメント 組織 リーダーシップ 看護ケア管理 人事管理労務管理 医療安全管理 看護の経済性 リスクマネジメント
学習目標 (授業の位置づけ)	目的：効率的、効果的な看護サービスを提供するための看護管理の概念を学び、医療機関における看護部門の役割と看護管理者の責務と役割について理解する。又、安全な医療の提供に不可欠である医療事故防止について医療安全教育に基づいた知識を養い、看護における「安全の確保」の思想を育む。  目標：1. 管理の概念及び看護管理の基礎的知識を理解する。 2. 看護部門における看護管理者の責務と役割について理解する。 3. 看護業務と医療事故の現状を知り、危険予知の重要性と事故防止対策を考える。 4. 事例を通し、要因とその分析を行い、事故防止の基本的知識、態度を身につける。
授業の形式	授業及びグループワーク 演習 事件事例
成績評価の方法	試験 グループワーク・レポート・参加度等も加味する
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 「看護管理」看護の統合と実践【1】 医学書院 系統看護学講座 「医療安全」看護の統合と実践【2】 医学書院 (参考書) 「看護学概論」基礎看護学【1】 必要に応じプリントを配布
メッセージ	看護の質と安全確保に向けた活動について、現在、実際に病院・施設において行われている医療、看護の質の確保と医療安全の視点から講義します。 医療安全の確保には、個々の医療従事者の安全強化と医療システムの双方の強化が求められます。リスク感覚を高め、危険を認知する能力が高められるよう、積極的な学びをしましょう。 看護の質の確保のための看護部門の責務と役割、医療チームの一員として役割を理解し、個々の責任としてどうあるべきかを学びましょう。

回	授 業 主 題	授 業 内 容	担 当
1	看護管理の基礎的知識	1. 看護管理学の定義・概念構成・基本的要素 看護ケア・サービスのマネジメント 看護のマネジメントが行われる場 (多職種との連携・協働)	鈴木 恭子
2	看護ケアのマネジメント	1. 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2. 患者の権利 3. チーム医療 4. 看護業務の実践 (日常業務のマネジメント)	鈴木 恭子
3 (0.5)	看護職の キャリアマネジメント	1. 看護職のキャリア形成 2. タイムマネジメント 3. ストレスマネジメント	鈴木 恭子
4	医療事故の概念	1. 医療事故、ニアミス、医療過誤の定義 2. ヒューマンエラーと医療事故 3. 医療事故の種類 4. 事故発生のメカニズム	佐々木 政美
5 6	医療事故防止のための 知識	1. ヒューマンファクターとエラーの分類 2. 人間は誤るもの～なぜ誤るか 3. 人間の情報処理の特徴 4. エラー防止の考え方 ヒューマンエラー対策案	佐々木 政美
7	看護サービスの マネジメント①	1. 組織目的達成のマネジメント 2. 看護サービス提供のしくみづくり 3. 人材・施設設備環境・物品・情報の マネジメント	鈴木 恭子
8	リスクマネージメントの 基本理念	1. 責任と倫理規定 2. 看護におけるリスクマネージメントとは 3. 看護実践の場で行われているRM取り組み	
9 10	危険予知訓練 (KYT) 看護のインシデント 事例の要因分析	1. 危険予知 演習～KYT 2. 事故分析：事例の紹介  演習～事例分析 (RCA)	



回	授 業 主 題	授 業 内 容	担 当
11	看護サービスの マネジメント②	1. 組織におけるリスクマネジメント 2. サービスの評価	鈴木 恭子
12	マネジメントに必要な 知識と技術	1. 組織とマネジメント 2. リーダーシップ（定義・理論） 3. 組織の調整	鈴木 恭子
13	安全管理	1. 安全管理の仕組み 2. 院内感染対策	鈴木 恭子
14	看護を取り巻く諸制度①	1. 看護管理に関連する法律 2. 看護と専門機関・職能団体	鈴木 恭子
15	看護を取り巻く諸制度②	1. 看護職の法的責任 2. 看護職の職業倫理 3. 医療制度	鈴木 恭子
(0.5)	学科試験		

教 科 目 名	災害看護と国際協力	単位数 (時間数)	1 単位(15 時間)
担 当 者		講義学年・学期	3 年次 前期

キーワード	災害対策の原則 災害医療 災害救護 被災社会 トリアージ(看護の視点からのトリアージ) 災害時の健康被害 国際看護 世界の健康(MDG s)
学習目標 (授業の位置づけ)	目的：看護の対象は「人間」である意味を理解し、世界で起こっている健康に関する諸問題から看護の役割を考える。又、災害により機能不全に陥った社会を知り、災害時の保健、医療ニーズを理解し、被災の場や被災者に必要とされる医療、看護の基礎的知識、技術を学ぶ。 目標：1. 災害の種類と災害がもたらす被災社会の構造について理解することができる。 2. 災害医療・看護の概念・目標を理解する。 3. 災害時の保健・医療ニーズについて理解する。 4. 災害時の必要な知識、技術を身につける。 5. 看護の対象が「人間」であることを理解し、国際的視野に立つ意味を理解できる。 6. 世界で起こっている健康問題を理解し、看護の役割を考えることができる。
授業の形式	授業と演習 災害看護の授業では演習や実際の活動状況などを紹介しながら進める。災害現場を想定した事例で、トリアージの基本・方法と既習の救急法、応急手当の基礎知識の復習をしていきたい。 国際協力では講義中心となるが、映像なども紹介をしていきたい。
成績評価の方法	授業・演習の参加態度、試験によって評価を行う。
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 統合分野「災害看護学・国際看護学」看護の統合と実践[3] 医学書院 必要に応じプリントを配布
メッセージ	看護の対象が「人間」であることを理解すると、看護は国際的視野に立つ必要性がおのずとわかることだと思えます。国際的な視野に立ち、人々の健康を脅かす諸問題を取り上げ、看護の役割を考えていきましょう。また、国際看護と国際協力が同意語ではないことも理解しましょう。 国内外に多くの災害が発生している中、災害への関心が高まっています。同時に災害時の医療活動への社会の期待も大きくなっています。看護を目指すものとして災害時の対象理解と看護の役割を考えていきましょう。

回	授業主題	授業内容	担当
1	災害医療・災害看護の概念	1. 災害救護医療活動の歴史と最近の災害 2. 災害医療対策 1) 災害に関する法律・制度及び関係機関の支援体制 2) 災害医療拠点病院の役割 3. 災害の種類と災害がもたらす被災社会の構造 1) 災害の概念・災害の種類 2) 被災社会の構造と疾病構造 3) 災害看護の対象、被災者の特性 4) トリアージ	
2	災害サイクル・サイクル別看護活動	1. 災害サイクルの特徴 1) 災害サイクルとは 2) 災害サイクル別看護活動 2. 避難所、仮設住宅での看護 手洗い、消毒等の感染予防対策 3. 他職種との連携や社会資源の活用	
3	派遣医療チームと看護師の役割  地域における災害対策と医療・看護活動	1. 災害援助活動の役割 2. 派遣医療チームと看護師の役割 DMAT 3. 過去の被災地における看護師の活動報告 4. 防災対策 災害対応マニュアル 災害訓練の方法 日常における災害点検 地域との協働体制	
4 5	集団災害医療とトリアージの方法	演習 トリアージの基本・方法 応急処置、救急搬送 多職種との連携	
6	世界の健康問題-1	1. 国際看護の意味 1) 看護の対象とは 2) 異文化学科試験によって評価理解 2. 世界の「健康」を取り巻く状況 1) MDG s	
7	世界の健康問題-2 国際協力	1. 世界の「健康」を取り巻く状況 1) 国際社会とジェンダー 2) その他 2. 国際協力 1) 国際看護と国際協力 2) 日本の国際協力 3) プライマリーケアとは 4) 国際救援	
8	学科試験		

教科目名	統合技術論	単位数(時間数)	1 単位・30 時間
担当者	後藤 里枝/井上 量子	講義学年・学期	3 年次・前 / 後期

キーワード	協働と連携 アサーション 多重課題 優先順位の判断 医療安全
学習目標 (授業の位置づけ)	<p>この単元は専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱの積み上げとして位置づける。また、医療安全、看護管理を踏襲する授業として考える。</p> <p>目的：多重課題のなかで、優先順位の判断や看護技術を統合する思考を養い臨床実践をイメージ化する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日の医療や医療保険（診療報酬）の仕組みが理解できる。</li> <li>2. 医療機器の取り扱い、管理方法が理解できる。</li> <li>3. 患者の状況に応じた問題解決、判断ができる。</li> <li>4. 複数患者の看護優先度が判断でき、時系列の整理ができる。</li> </ol>
授業の形式	<p>講義、演習で展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療機器の操作と事故防止 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 輸液ポンプ、シリンジポンプ技術演習</li> </ol> </li> <li>2) 事例展開（個人・グループ） <ol style="list-style-type: none"> <li>①事例学習（4 事例）</li> <li>②複数受け持ち患者の行動計画作成</li> <li>③シミュレーションにおける実践</li> <li>④チームリーダー（夜勤者）への申し送り内容作成</li> </ol> </li> <li>3) 事例患者の状況に応じた問題解決・判断</li> <li>4) 演習を通してのまとめ</li> </ol>
成績評価の方法	筆記試験(100)にて評価を行う。
教科書・参考書	<p>テキスト指定なし</p> <p>随時、プリント配布</p>
メッセージ	<p>多くの看護場面では複数の患者を受け持ち、それぞれの患者の病態、その日の症状・指示、そして患者のニーズ等を把握して看護を展開していきます。また予想のできない事態も起こることがあります。看護者として、その場で起こっていることを的確に判断し、ケアをしていくことが要求されます。さらに、患者の安全が何よりも優先されます。</p> <p>この単元では、看護問題解決のためのケアを、ある一日を想定し実施します。一日のケアを時系列で計画し「何を見るべきなのか」「何が優先されることなのか」「なぜ、そのことが要求されるのか」などを考えながら演習を主体に進めていきます。単に、指示されたことをするのではなく、看護的な判断や看護者としての倫理も考えながら学んでいきます。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講師
1	授業 OR 事例学習 OR	1. 統合におけるアセスメント,計画立案とは 2. 事例学習について、事例紹介	後藤 里枝
2	事例学習①	1. 事例学習  (課題提出あり)	後藤 里枝
3	事例学習②	1. 事例学習  (課題提出あり)	後藤 里枝
4 5	医療機器の取り扱い 輸液ポンプ/ シリンジポンプ	1. 輸液ポンプの使用方法、適応、留意点について 2. シリンジポンプの使用方法、適応、留意点について 3. 実際の操作 (DVD 視聴、演習)	井上 量子
6	事例学習③	1. 事例学習  (課題提出あり)	後藤 里枝
7	現在の病院を取り 巻く医療の現状と 課題	1. 診療報酬、入院基本料について 2. 診療報酬の実際 3. SPD 方式について	
8	ケア提供の意味	1. 協働と連携、アサーティブネスとは	後藤 里枝
9	平等な質の看護	1. 「平等な質の看護」とは	後藤 里枝
10	申し送りの方法	1. 夜勤看護師への申し送りの方法、内容 2. SBAR	後藤 里枝
11	複数受け持ち 行動計画①	1. 3 事例から 2 事例ずつ 2 つの複数受け持ち患者の 行動計画を立案する	後藤 里枝
12	複数受け持ち 行動計画②	1. 3 事例から 2 事例ずつ 2 つの複数受け持ち患者の 行動計画を立案する  (課題提出あり)	後藤 里枝
13 14	行動計画、 報告内容の実践① (演習)	1. 複数受け持ち時の看護、チームリーダーもしくは 夜勤者への申し送りをシミュレーションで実践、 展開する	後藤 里枝
15	まとめと筆記試験	1. まとめ 2. 筆記試験	後藤 里枝